

Reply from the Author

パーキンソン病に合併した restless genital syndrome における
レストレスレッグス症候群類似の病態の考察について

澤村 正典¹⁾ 當間圭一郎²⁾ 宇高不可思^{2)*}

Pathophysiological similarity between restless genital syndrome
and restless legs syndrome in Parkinson's disease

Masanori Sawamura, M.D.¹⁾, Keiichiro Toma, M.D., Ph.D.²⁾ and Fukashi Udaka, M.D., Ph.D.²⁾

¹⁾Department of Neurology, Kyoto University Hospital

²⁾Department of Neurology, Sumitomo Hospital

(臨床神経 2015;55:850)

拝復

私どもの論文「陰部むずむず感で発症したパーキンソン病の1例」(臨床神経 2015;55:266-268)に関して鈴木圭輔先生から貴重なご意見を頂き誠にありがとうございます¹⁾。

ご指摘のように、2014年にAquinoらも本症例と類似したrestless genital syndrome(RGS)の症例を報告しており²⁾、RGSがrestless legs syndromeの表現型のひとつではないかと示唆されます。

本症例やAquinoらの報告例ではドパミンアゴニストの効果を認めましたが、無効であったとする既報告³⁾や、鈴木先生よりご指摘頂いた、リスペリドンが奏功したRGSの症例⁴⁾が存在することなどから、RGSの病態は均一でない可能性があります。

また、restless legs syndromeにつきましても、レボドパ減量やドパミンアンタゴニストが疼痛の改善に有効であった症例⁵⁾に加え、レボドパやドパミンアゴニストでの治療中に症状がむしろ増悪する現象“augmentation”の存在や、重度の“augmentation”を呈する症例ではアカシジアとの類似性が指摘されている⁶⁾など、複数の発症機序が関与している可能性があります。

私見ですが、RGSの発症機序の解明には、ドパミンアゴニストへの反応性のある群に注目した解析が糸口になるかも知れません。

RGSの認知度が低いために、本症例は心因反応や身体表現性疾患と診断されていました。神経内科医をはじめ、精神科医や産婦人科医にRGSという病態の存在と、ドパミンアゴニ

ストも治療の選択肢となりうることを知って頂き、同様の症状で苦しんでおられる患者様の治療の一助になればと思います。投稿させて頂きました。

敬具

※本論文に関連し、開示すべきCOI状態にある企業、組織、団体はいずれも有りません。

文 献

- 1) 鈴木圭輔, 宮本智之, 平田幸一ら. パーキンソン病に合併したrestless genital syndromeにおけるレストレスレッグス症候群類似の病態の考察について. 臨床神経 2015;55:848-849.
- 2) Aquino CC, Mestre T, Lang AE. Restless genital syndrome in Parkinson disease. JAMA Neurol 2014;71:1559-1561.
- 3) Wylie K, Levin R, Hallam-Jones R, et al. Sleep exacerbation of persistent sexual arousal syndrome in a postmenopausal woman. J Sex Med 2006;3:296-302.
- 4) Waldinger MD, Schweitzer DH. Persistent genital arousal disorder in 18 Dutch women: Part II. A syndrome clustered with restless legs and overactive bladder. J Sex Med 2009;482-497.
- 5) Ford B, Louis ED, Greene P, et al. Oral and genital pain syndromes in Parkinson's disease. Mov Disord 1996;11:421-426.
- 6) García-Borreguero D, Williams AM. Dopaminergic augmentation of restless legs syndrome. Sleep Med Rev 2010;14:339-346.

*Corresponding author: 住友病院神経内科 [〒 530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3番20号]

¹⁾ 京都大学付属病院神経内科

²⁾ 住友病院神経内科

(Received June 29, 2015; Accepted July 15, 2015; Published online in J-STAGE on October 8, 2015)

doi: 10.5692/clinicalneurology-000777